



慢性腎臓病(CKD)の有用な治療薬が広く使えるようになりました

腎臓病センター長 腎臓内科 教授 尾田 高志

CKD の進行抑制に有効な治療薬が判明しました！！



腎臓の働きが健康な人の 60%以下に低下するか、あるいはタンパク尿が出るといった腎臓の異常が持続的に続く状態を慢性腎臓病(CKD)と呼び、日

本人の約 1,330 万人、すなわち成人の約 8 人に 1 人が CKD 患者であるといわれています。CKD は無症状のまま緩徐に進行することが多く、腎機能障害が進行すると腎臓は再生できないため、末期腎不全となって、人工透析や腎移植を受けなければ生きられなくなってしまいます。

これまで、CKD の治療としては、ある種の降圧薬のみが広く使用されてきましたが、その治療効果は限定的で、血圧が低い患者さんやカリウムと呼ばれる電解質が高い患者さんには使えなかったり、薬物治療に限界がありました。このような中、これまでの治療薬の中で最も大きな効果がみられ、かつ血圧の低めの患者さんにも使いやすく、高カリウム血症などの副作用を心配しないで使用できる、画期的な新しい治療法が最近判明しました。これが、血糖降下薬の SGLT2 阻害薬という種類の薬です。従来糖尿病の患者さんのみに使用されてきたのですが、実は、心臓や腎臓に対する高い臓器保護効果があることが分かってきたため、糖尿病が無くても、腎保護、心保護目的で使用されるようになってきました。腎機能障害、心機能障害には関連性があることが知られ、悪くなる時は両者が同時に悪化することが多いことから、両者に有効なこの薬は画期的と言えます。手術前後や体調不良で食事が摂れない際には内服を中止する必要があるなど、新しい治療法として注意すべき点はいくつかありますが、糖尿病の患者さんには広く使用されてきた歴史がありますので予想外の副作用は少ないものと思われます。

CKD はしばしば長い年月をかけて無症状のまま進行することが多いため、放置されがちです。新しい薬は有効ですが、あくまで腎障害の進行を抑える薬ですので、進行する前の治療開始が重要です。`腎臓が悪い`と言われた方は、有効な進行抑制薬があることに配慮して、是非早めに近くの内科クリニックでご相談いただき、必要により当院をご紹介いただいで下さい。